

コウノトリ



毎週月曜日更新

# カタカタ通信

第127号

## 「アカハライモリが繁殖しました！」

2024年5月27日

この春、「いきものコーナー」で飼育展示しているアカハライモリにたくさんの赤ちゃんが生まれました。なので今回は、そのアカハライモリの繁殖についてレポートします♪

天空の里では2つの水槽で“オス2匹メス1匹ずつ計6匹”を飼育しています。この1か月半ほどの間、両水槽で産卵が続きました。

こちらが産卵当日の卵です。(写真①) 大きさは直径3～4mmほど。透明な卵の中で胚は日に日に発生が進み、成長していく様子が見られました。(写真②)



写真①(産卵当日の卵)



写真②(産卵数日後の卵)

産卵後10日ほど経つと、目やエラなどの器官ができ、中でクルクルと動く様子も見られるようになりました。(写真③・④)



写真③(目やエラがみられる)



写真④(ふ化はまだ?)

いつ出てくのかなーっと毎日ワクワクしながら見守っていましたが、ここから意外と出てこず、1週間ほど経ち…、ようやくふ化しました！(写真⑤)

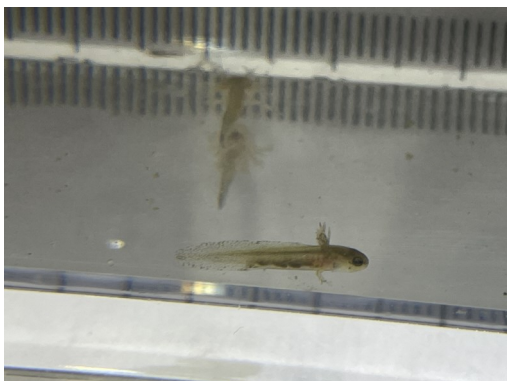


写真⑤(ふ化当日の幼生)

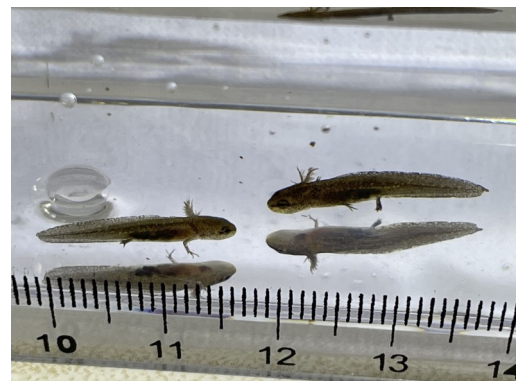
ふ化したばかりのアカハライモリはお腹にヨークサック（栄養分の入った袋のようなもの）を持っているので、数日間エサは食べません。あごの下には、 balanizer と呼ばれるアンテナのようなものが生えており、身体を平衡に保つのに役立っているようです。

その後、ミジンコをせっせと与えると食欲旺盛に食べ、1週間ほどで前足が生え、balanizer が消失しました。(写真⑥)

そこからまた1～2週間ほど経つと、後ろ足も生えてきました。(写真⑦)



写真⑥(前あしの生えた幼生)



写真⑦(後ろ足も生えた幼生)

このころからエサのミジンコを卒業し、冷凍のアカムシを食べられるようになりました。（写真⑧）



写真⑧(冷凍アカムシを食べる幼生)

幼生たちが慣れるまではアカムシをピンセットで1本1本揺らし、生きているように見せて与えました。このころにはたくさんの幼生が孵っていたのでなかなか根気のいる作業です。幼生たちは麺類を吸い込むがごとく、ヒュッと食いつき、モグッモグッと食べていきます。

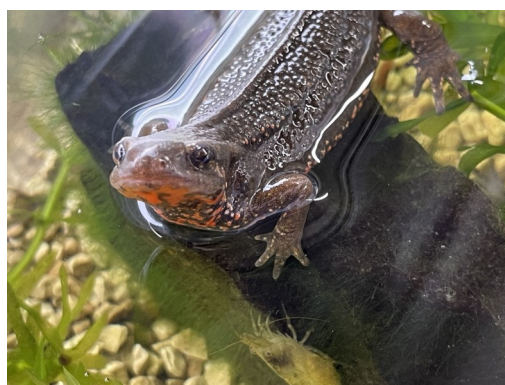
アカハライモリの幼生の成長をご覧いただけるのは今だけ。これから幼生たちは夏から秋にかけて変態し、幼体(小さなイモリ)になって陸上生活を送るようになります。

その際にはまたレポートをしたいと思います。

では、続報をお楽しみに～！



産卵中のメス個体



エサを待つ成体メス

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター  
飼育担当：ほっぴー